

指定国立大学法人京都大学の令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果

1. 全体評価

京都大学は、平成29年6月30日付で指定国立大学法人として指定され、令和7年度をめどに大学を社会や世界に開く「窓」と位置付け、意欲的な学生や優れた研究者を育成して広く社会へ輩出し、地球規模での人類社会の課題解決に貢献することを構想に掲げている。第3期中期目標期間においては、研究の自由と自主を基礎に、先見的・独創的な研究活動により次世代をリードする知の創造を行うこと、対話を根幹とした自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養に努めるとともに優れた研究能力や高度の専門知識を持つ人材を育成すること、国民・世界に開かれた大学として自由と調和に基づく知を社会に還元すること等を基本的な目標として掲げ、取組を進めている。

この目標の達成に向け、令和2年度に行うこととしている取組とその進捗状況は要素別に以下のとおりであり、当該法人が掲げる指定国立大学法人構想の実現に向けて、学長のリーダーシップの下、計画的に取り組んでいることが認められる。中でも、研究成果・知的財産の活用促進に向けた新しい「京大モデル」の構築推進やiPS細胞の早期実用化に向けた取組は意欲的なものであり、世界最高水準の教育研究活動の展開とイノベーション創出に向けて、さらに積極的に取組を進めていただきたい。

【国際ベンチマークを参考とした取組の進捗状況】

指定国立大学法人構想の目標設定に際して、海外大学の取組や目標を踏まえており、令和2年度は主に以下の取組を実施し、指定国立大学法人の構想の進捗に向けて積極的に取り組んでいる。

- 研究力強化（参考とした大学：カリフォルニア大学サンディエゴ校）
 - 医学部附属病院次世代医療・iPS細胞治療研究センターの設置及び当該センターでの臨床試験の開始
- 社会との連携（参考とした大学：オックスフォード大学）
 - 研究成果・知的財産の活用促進に向けた新しい「京大モデル」の構築推進

2. 要素別評価

※取組番号は実績報告書と一致させている

(1) 人材育成・獲得

【主な取組の実施状況及び成果】

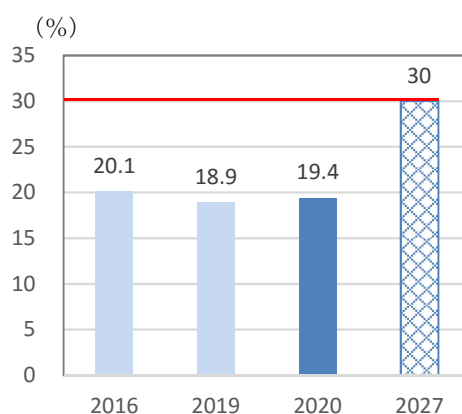
- 取組 1. 「Kyoto University International Undergraduate Program」【80】
- 取組 2. 卓越大学院プログラム【4】
- 取組 4. 京都大学次世代研究者育成支援事業「白眉プロジェクト」【24】
- 取組 5. 優秀な若手教員獲得・育成【24】【57】

- Kyoto University International Undergraduate Program (Kyoto iUP) 合格者に対する受入前段階教育・支援や予備教育の実施
- 「メディカルイノベーション大学院」プログラムを開設 (履修生: 35名)
- 白眉プロジェクトの継続的实施
 - ・【グローバル型】世界30か国278名の応募から10名を採用
 - ・【部局連携型 (テニュアトラック型)】大学から5ポストを提示し、4名を採用
- 若手重点戦略定員事業により、66名の若手教員を雇用

(取組の進捗を示す参考指標等)

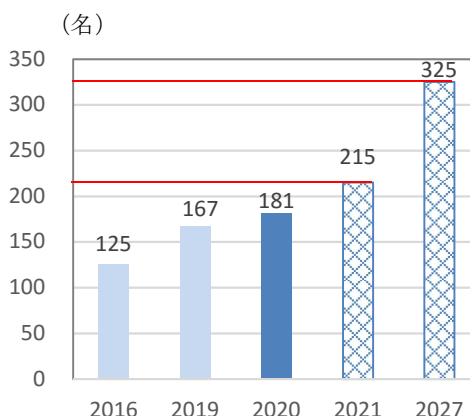
【若手教員の割合】

- 2027年度末までに30.0%
 - 2016年度: 実績 20.1%
 - 2019年度: 18.9%
 - 2020年度: 19.4%



【白眉プロジェクトによる研究者採用数】

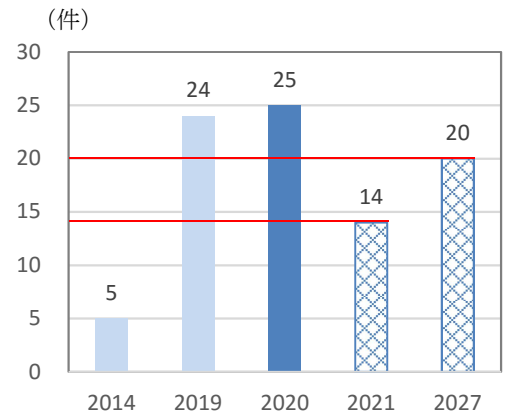
- 2027年度末までに累計325名
 - 2016年度末: 累計125名
 - 2019年度末: 累計167名
 - 2020年度末: 累計181名



(その他の参考指標等)

【ジョイント・ディグリー、ダブル・ディグリー件数】

- 2027年度末までに年間20件
 - 2014年度：5件
 - 2019年度：24件
 - 2020年度：25件



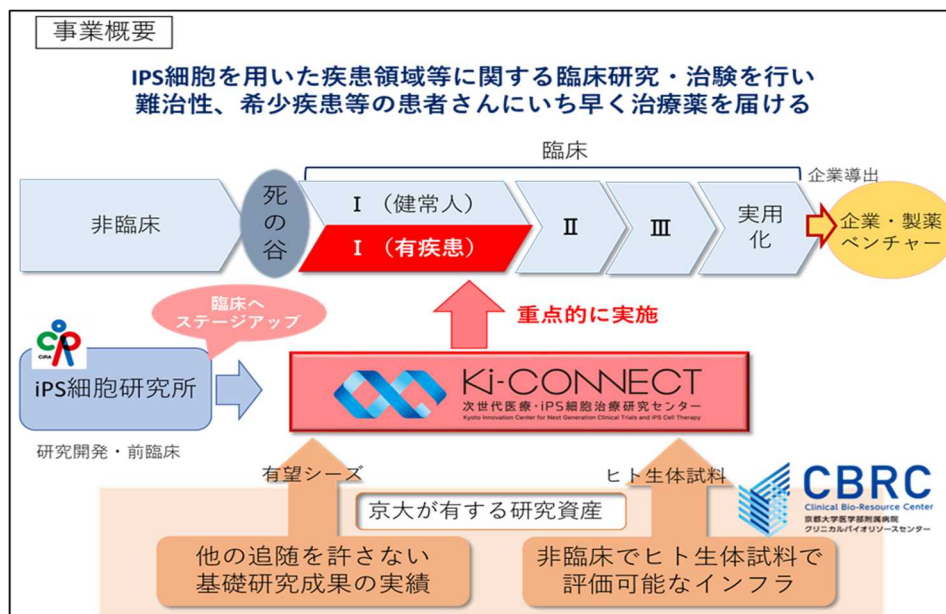
(評定) 新型コロナウイルス感染症拡大の制約がある中でも、Kyoto iUP予備教育履修生選抜審査において、数多くの出願者を得ているほか、新たな卓越大学院プログラムの開設構想の達成に向けて順調に進捗している。若手重点戦略定員事業等による若手教員のポスト拡充が行われているが、今後、目標の達成に向けて、若手教員の獲得・育成にさらに積極的に取り組むことを求めたい。

(2) 研究力強化

【主な取組の実施状況及び成果】

➤ 取組1. 再生医療と先端医学研究【21】

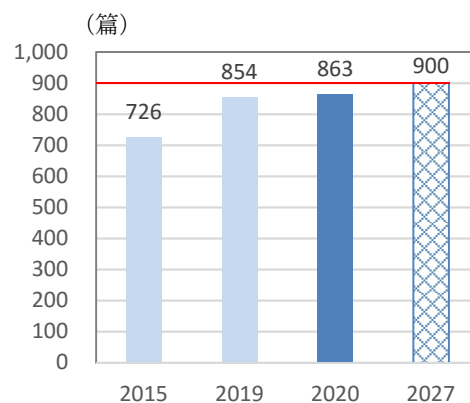
- 医学部附属病院次世代医療・iPS細胞治療研究センターを設置し、臨床試験を開始
- iPS細胞の製造や品質評価等の技術を産業へ橋渡しする機能を担う京都大学iPS細胞研究財団を設立



(取組の進捗を示す参考指標等)

【国際的に評価の高いジャーナル (Top5%) への掲載論文数】

- 2027年度までに年間900篇
 - 2015年度：単年実績726篇
 - 2019年度：854篇
 - 2020年度：863篇



(評定) 次世代医療・iPS細胞治療研究センターの設置等iPS細胞及びiPS細胞技術を利用する医療・創薬の早期実用化に向けた研究の強化推進やiPS細胞研究の裾野の拡大など、構想の達成に向けて順調に進捗している。

(3) 国際協働

【主な取組の実施状況及び成果】

➤ 取組1 On-site Laboratory (海外の大学や研究機関等との間での現地運営型研究室) 【84】

- 「グリーン多孔性材料ラボラトリ」を新たにOn-site Laboratoryとして、認定・設置
- 「京都大学サンディエゴ研究施設」を中心とした研究成果の社会実装への貢献と展開の促進のため、京大オリジナル株式会社の下に、米国子会社としてCAMPHOR TREE.LLCを設置
- 「京都大学-清華大学環境技術共同研究・教育センター」において、ダブル・ディグリープログラムを開始



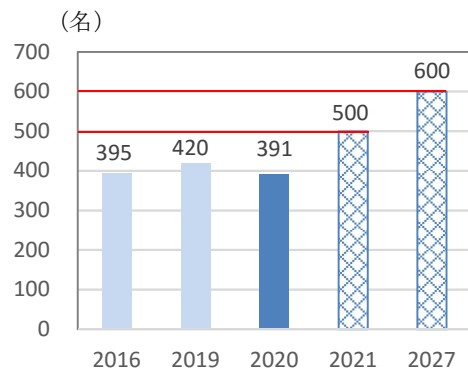
On-site Laboratory

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| 1. 京都大学サンディエゴ研究施設 | 6. 京都大学上海ラボ |
| 2. IFOM-KU 国際共同ラボ | 7. マケレレ大学遺伝学・フィールド科学先端研究センター |
| 3. 京都大学-清華大学環境技術共同研究・教育センター | 8. グラッドストーン研究所 iPS 細胞研究拠点 |
| 4. Mahidol 環境学教育・研究拠点 | 9. 統合バイオシステムセンター |
| 5. スマート材料研究センター | 10. 量子ナノ医療研究センター |
| | 11. グリーン多孔性材料ラボラトリ |

(取組の進捗を示す参考指標等)

【外国人研究者数 (常勤)】

- 2027年度までに600名
 2016年度：395名 → 2019年度：420名
 → 2020年度：391名



(評定) 新たなOn-site Laboratoryの認定・設置や米国子会社の設置による現地法等に対応した盤石な研究支援体制の整備及び支援対象の拡大など、構想の達成に向けて順調に進捗している。

(4) 社会との連携

【主な取組の実施状況及び成果】

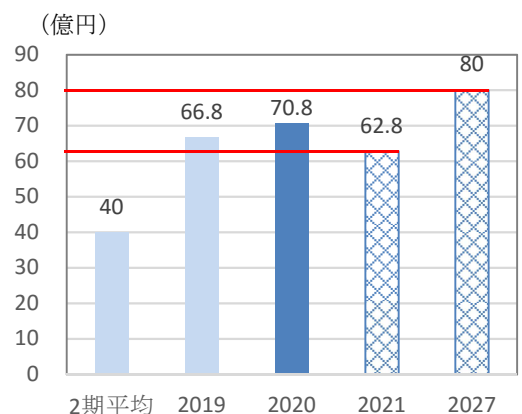
- 取組 1. 「京大モデル」の構築【85】
- 取組 2. 「組織」対「組織」による産官学連携の促進【49】

- 「京大オリジナル株式会社」、「京都大学イノベーションキャピタル株式会社」、「株式会社TLO京都」の有機的な連携
 - ・ 研究開発の初期段階からアクセスし評価できる研究基盤の構築を目指し、医学部附属病院や民間企業と合弁で設立した株式会社KBBMに京大オリジナル株式会社から出資（間接出資）
 - ・ iPS細胞関連技術の実用化に向けた産業界への技術移転・実用化を促進するためのTLOであるiPSアカデミアジャパン株式会社に直接出資
 - ・ 研究機関に対してクラウド上で新しいサービスを提供する合弁会社であるフィッティングクラウド株式会社に京大オリジナル株式会社から出資（間接投資）
- オープンイノベーション機構において、大型共同研究の推進に取り組む教員に対し、「定年制の例外適用」や「研究代表者に対するインセンティブ加算」等の制度を整備・運用

(取組の進捗を示す参考指標等)

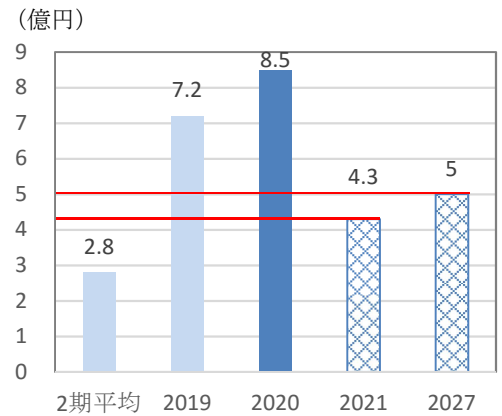
【共同研究の実施金額】

- 2027 年度末までに共同研究実施金額 80 億円
 - 第 2 期中期目標期間の年間平均：約 40 億円
 - 2019 年度：66.8 億円
 - 2020 年度：70.8 億円



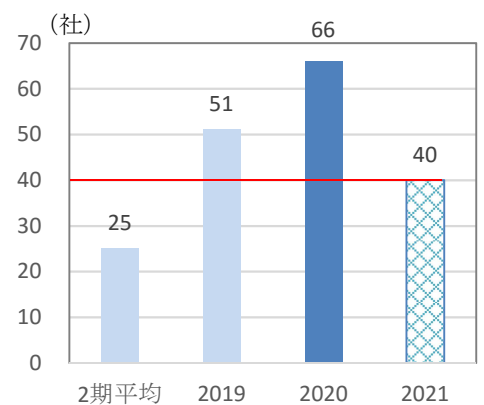
【知的財産収入額】

- 2027 年度末までに知的財産収入額 5 億円
第 2 期中期目標期間の年間平均 2.8 億円
 - 2019 年度 : 7.2 億円
 - 2020 年度 : 8.5 億円



【ベンチャー企業創出数】

- 2021 年度末までに 40 社
2027 年度末までに第 3 期間中期目標期間の実績から新たに 40 社
第 2 期中期目標期間の平均 25 社
 - 2019 年度 : 51 社
 - 2020 年度 : 66 社



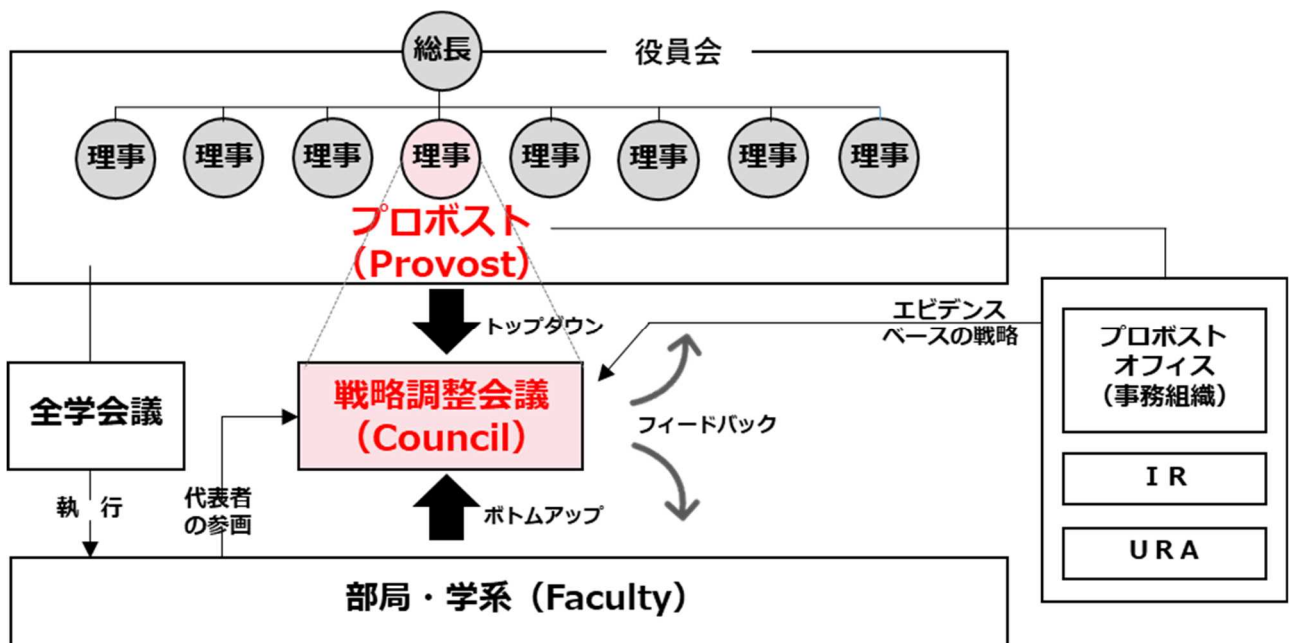
(評定) 設立した事業子会社において、研究成果・知的財産の活用促進に向けた産官学連携の新しい「京大モデル」の構築が引き続き進められているほか、オープンイノベーション機構への共同研究の誘引、大型化させるための体制構築等、産官学連携構想の達成に向けて順調に進捗している。なお、参考指標のうち、当初設定した目標を早期に上回ったものについては、次年度に向け、新たな目標を設定の上、引き続き意欲的に取組を進めることを期待する。

(5) ガバナンスの強化

【主な取組の実施状況及び成果】

- 取組 1. 京大版プロボストと戦略調整会議【52】
- 取組 2. エビデンスベースの大学経営【20】【52】

- 「指定国立大学法人構想に掲げた各種施策の実行に向けた検討」に関して、プロボストを議長とする戦略調整会議の下に置かれた各小委員会において議論
 - ・ 「人文知の未来形発信」の実施体制の構築に向けた検討
 - ・ 女性の活躍を阻む阻害要因を分析し、取り組むべき施策を取りまとめ
- リサーチ・アドミニストレーター（URA）が大学の今後の方向性に係る判断を支援する分析情報を執行部へ提供（66件）
- IR推進室が中心となり、アカデミック・レピュテーションの調査手法等様々なテーマの調査分析を実施し、分析結果から見える大学の課題を取りまとめたレポートを作成することで執行部の意思決定を支援



(評定) プロボスト及び戦略調整会議が有効に機能しているほか、IR推進室やURAにおける調査分析による大学の経営マネジメント強化など、構想の達成に向けて順調に進捗している。

(6) 財務基盤の強化

【主な取組の実施状況及び成果】

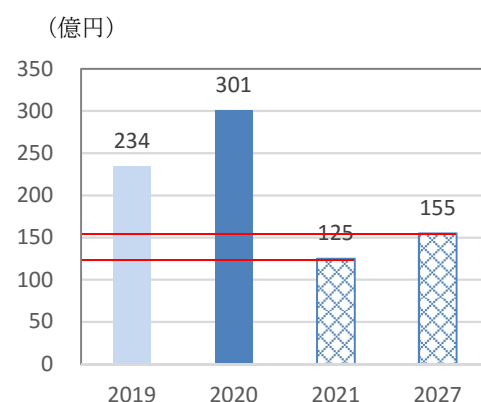
➤ 取組 1. 自己収入の拡大【62】【64】【66】

- 「京都大学基金企業寄附奨学金 (CES)」により、1,700万円の寄附を獲得し、39名の学生に奨学金を支給
- 新型コロナウイルスの研究に対して、約1億5,000万円を受け入れ
- 個人篤志家からの大型寄附 (総額100億円:10年間)を受け入れ、その一部を活用してがん免疫療法に関する研究を推進する専用基金を設置

(取組の進捗を示す参考指標等)

【京都大学基金 (特定基金を含む) の寄附受入累計額】

- 2027年度末までに、155億円
 - 2019年度:累計234億円
 - 2020年度:累計301億円



(評定) 寄付活動の働きかけを幅広く展開し、法人・個人から全体で37億円の寄附を獲得するなど、構想の達成に向けて順調に進捗している。なお、参考指標のうち、当初設定した目標を早期に上回ったものについては、次年度に向け、新たな目標を設定の上、引き続き意欲的に取組を進めることを期待する。

3. その他

【コンプライアンス関連の取組】

- 研究活動における不正行為防止及び研究費使用における不正防止の取組
 - ・ 京都大学研究公正推進アクションプランに基づき、研究公正リーフレットの配付、指導教員による学生指導、e-learning研修等を実施。
 - ・ 京都大学研究公正推進アクションプランについては、研究データ保存に係るルールの周知徹底、修士・博士論文に加え、原著論文についても剽窃検知オンラインツールの利用を促進することを追記するなどの改訂を実施。
 - ・ 近年発生した不正事案や新たな会計ルール等を反映した「研究費使用ハンドブック」を作成・配付し、その内容を教材としたe-learning研修「研究費等の適正な使用について」を競争的資金等の運営及び管理に関わる全ての教職員に対して講習を実施。
 - ・ 研究公正担当理事が、各部局へ出向き、双方向で意見交換をしつつ、教員一人ひとりに研究費不正撲滅に向け意識改革を訴える「全部局キャラバン」を実施したほか、コンプライアンス教育と構成員の意識改革の重要性の意義について徹底を図るため、全部局長と意見交換。

- 情報セキュリティに関する取組
 - ・ 学術系CSIRTネットワーク、文部科学省、独立行政法人情報処理推進機構、一般社団法人JPCERTコーディネーションセンターからの注意喚起メール等から情報収集を行い、脅威情報のリスク分析を実施し、リスクに応じて全学通知や全学情報セキュリティ技術連絡会へ連絡。
 - ・ インシデント対応訓練の中で、京都大学情報セキュリティインシデント対応手順、情報セキュリティインシデント対応連絡要領の見直しの必要性について確認を実施。